

みんながつながる 地域学校協働活動便り NO.12

青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ TEL017-734-9890

R6. 6月 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員 工藤知久子



令和6年度 地域と学校とのパートナーシップ強化事業 『地域学校協働活動研修』のご案内

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的な推進に向けて～

県教育庁生涯学習課主催の令和6年度『地域学校協働活動』研修会は、地域と学校とが連携・協働する意義やコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の役割や効果について、文部科学省CSマイスターをお招きし、下記日程にて開催いたします。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて、県教育委員会及び市町村教育委員会職員、小中学校及び県立学校教職員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、学校運営協議会委員等を対象に、文部科学省の施策や全国の先進的な事例を紹介、合意形成をする上で有効な手立ての一つである熟議の体験など、すぐに役立つ内容となっております。

ご案内は、各市町村教育委員会、小・中・高等学校へメールでお知らせしております。参加申込みを希望する方は、下記のQRコード、またはURLからもお申し込みいただけます。

なお、ご不明な点がございましたら、県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ（TEL017-734-9890）へお尋ねください。皆さまのご参加をお待ちしております。

特に教育委員会の皆さんのご参加をお待ちしています。

講義	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて
演習	講師をファシリテーターとするワークショップを通じて模擬熟議を体験する

日時		地区	場所	講師
7/4(木)	13:30~16:30	中南地区	弘前市立中央公民館 相馬館長慶閣	(一社) エス・プライス 代表理事 井上尚子氏
7/5(金)	//	下北地区	むつ来さまい館	(一社) エス・プライス 代表理事 井上尚子氏
8/8(木)	//	東青地区	青森県総合社会教育 センター	ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋宏之氏
8/9(金)	//	上北地区	東北町コミュニティ センター未来館	ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋宏之 氏
8/19(月)	//	西北地区	つがる市生涯学習交 流センター松の館	ゆめ☆まなびネット 代表 大谷裕美子氏
9/3(火)	//	三八地区	南部町総合保健福祉 センターゆとりあ	(一社) エス・プライス 代表理事 井上尚子氏

申込〆切：各研修会開催日の2週間前

<https://forms.gle/M2zt4QJgm61uomJf8>



参加申込QRコード

他地区への参加も歓迎します。旅費は所属とご相談下さい。

青森県立八戸盲学校・八戸聾学校「令和6年度第1回学校運営協議会」開催

5月16日（木）、青森県立八戸盲学校・八戸聾学校（盲学校小学部8名、中学部2名、計10名。聾学校幼稚部6名、小学部10名、中学部4名、計20名。）にて、令和6年度第1回学校運営協議会が開催されました。小笠原一恵校長から委員へ委嘱状交付後、学校運営協議会実施計画(案)と学校経営方針(案)の説明、令和5年度の外部人材を活用した教育活動の報告等があり、今年度の学校経営方針は承認されました。委員からは、「こどもたちの体験学習を増やし、地域で生活できるよう、学校との連携は今後も協力を惜しまない。」との意見がありました。

当校は、令和3年度から学校運営協議会が導入され、学校経営方針の承認や学校への提言など、教育ビジョンが共有されています。昨年度第1回学校運営協議会では、委員の方々の前で、こどもたちが、「やってみたいこと」を発表し、地域の協力のもと、いくつか実現しました。また、教職員との「やってみたいこと」と題した熟議では、「地域の祭り、文化を学ぶ」ことが熱心に協議され、地域を学ぶ「アイラブはちのへ」～サマースクール～を今年7月に実施することになりました。地域とともに発展する学校、特色ある学校を目指しています。

中南教育事務所「管内社会教育関係課長、公民館長及び担当者会議」開催

5月23日（木）、青森県武道館にて、令和6年度中南管内社会教育関係課長・公民館長及び担当者会議が開催されました。中南教育事務所からの令和6年度事業説明と、弘前市・黒石市・平川市・西目屋村・藤崎町・大鰐町・田舎館村教育委員会及び公民館による地域資源を活かした特色ある事業が、担当者から紹介されました。

会議の最後に、情報提供として、県生涯学習課地域連携推進グループ工藤健夫主任社会教育主事が「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて」～「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議最終まとめ」をもとに～と題して、地域との連携の必要性や課題、今後の取組の方向性等について説明しました。また、今年度から県教育庁内で、コミュニティ・スクールの所管が生涯学習課となり、関係各課と連携・情報共有をはかりながら、地域学校協働活動に加え、コミュニティ・スクールについても、市町村や学校関係者への情報提供や相談支援を行っていくことを参加者にお知らせしました。



こどもの未来、地域の未来～最近思うこと～

年明けに発災した石川県能登半島地震から6ヵ月が経ちます。3月初旬、名古屋の災害救護認定 NPO 法人の拠点がある穴水町で、災害支援ボランティア活動をしてきました。発災時は年末年始を実家や旅行先で過ごしていた人が多く、避難所も溢れんばかりでした。教室のカーテンを外して寒さをしのぎ、暗闇と状況がわからない不安感人を苛立たせ、怒号が飛び交う避難所がある一方、避難者を体育館に町会毎に並べせ、安否確認と名簿を作成し情報収集する避難所もありました。この違いは、平時における地域とのつながりです。後者の避難所となっている小学校は、日頃から地域の祭りや行事にこどもたちを参加させていて、学校と地域、地域住民同士の信頼関係は時間をかけて築かれていました。避難所運営についても協力体制がスムーズに行われました。また、陸上競技場に建てられた180戸の仮設住宅には、個性豊かな表札が並んでいます。これは、「まごころ表札プロジェクト」で中学生が作成したもので、避難所から移転してきた被災者にとっても感謝されています。（これこそ地域学校協働活動！！）

夕食配膳配布、足湯、仮設住宅移転補助、戸別訪問聞き取り調査、避難所訪問など、マスコミでは報道されない支援がたくさんあります。乳幼児がいる母親は、「発災から家族以外の誰とも話をしていない。」と不安をあらわにしていたのですが、支援を受け、被災者ひとり一人に寄り添い、傾聴することが心の癒やしにつながることを実感しました。

春休み期間だったこともあり、高校生と大学生が、災害支援ボランティア募集のチラシを見て参加していました。今回、寝食を共にした学生ボランティアに将来の夢を聞くと、「原宿で財布をなくして困っていた時に警察官の優しさに触れ、自分も警察官になるために警察官合格率100%の大学に通っている。」「ひきこもって学校を休んでいた時にフィリピンへボランティアに行った。そこで見たこどもたちのために保育士になりたい。」「大学では生命科学バイオを専攻し大学院に通っていたが病気で休学した。4月からは地方の人口三千人の町に行き、近い将来、町長になる。それから政治家を目指して教育改革をする。」「親が教師をしていて尊敬している。親には言っていないが、私も絶対教師になる。」……こどもたちが夢を実現するために、私たち大人もつながり協力していきましょう。



まごころ表札プロジェクト